

## 会議録

会議の名称	令和5年度第2回加東市部活動あり方検討委員会
開催日時	令和5年10月26日(木) 19時00分から20時35分まで
開催場所	加東市役所2階 201会議室
議長の氏名 (委員長 森田啓之)	
出席及び欠席委員の氏名	
	〔出席〕12名 森田啓之委員 中原公寿委員 竹内守男委員 山平康弘委員 三村勇委員 藤本進委員 伊藤賢吾委員 平川真也委員 岸本善仁委員 岸本大介委員 家本典子委員 岸本孝司委員
説明のため出席した者の職氏名	なし
出席した事務局職員の氏名及びその職名	こども未来部 参事兼学校教育課長 井上聡 学校教育課 係長 郡龍仁
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	
	〔議題〕 (1) 今後の課題や取組等について (2) その他  〔会議結果〕 (1) 今後の課題や取組等について ・第1回会議録をもとに、部活動地域移行に係るキーワードを整理。 ・加東市立学校における部活動入部状況や参考資料「運動部活動の地域移行等に関する実践研究事例集」(令和5年9月・スポーツ庁)をもとに、地域移行のイメージについて意見交換。 ・今後の取組(アンケートの実施等)について提案し、協議。 ・今後のスケジュール案について提案。 (2) その他 ・第3回12月21日(木)、第4回2月16日(金)に開催予定。

〔会議の経過〕

1 開会

(事務局)

ただいまから令和5年度第2回加東市部活動あり方検討委員会を開会いたします。

開会にあたりまして、教育委員会事務局こども未来部参事兼学校教育課長井上が挨拶申し上げます。

(井上参事)〔挨拶〕

(委員長)

一つ目、今後の課題や取り組み等についてということで、前回の会議で発言いただいたことから地域展開に向けた課題がいくつか見えています。それを事務局としてまとめていきますので、説明をお願いします。

(事務局)〔資料1〕について説明。

(委員長)

これについてはよろしいですか。〔異議なし〕

続いて、加東市の部活動の現状について、資料3を説明してもらいます。

(事務局)〔資料3〕について説明。

(委員長)

感想や現場の先生方のご意見も含めて、何かいただけたら嬉しいです。

(委員)

陸上に関して、滝野中から社中に行っていると聞いたことがありますが。

(委員)

社中に入学して活動しているという例はあります。

(委員)

社中だけで陸上部があるということですね。

(委員)

陸上部は、社中だけです。それから附属中にもありますが、市立の学校では社中だけです。

(事務局)

校区の中学校にその部活がない場合、違う中学校に行くのは認めています。あるのに違う学校へ行くのは認めていません。

(委員)

柔道の場合は、登録をした場合、移籍は一切できません。違うチームで練習はできますが、その代わり大会は一切出られません。

個人競技の一つの団体戦ですから、親も含めて勝ち負けを意識したら、選手を取ってこようと思えば、本当に強いチームができるのには間違いありません。

なんでもかんでもいいよということではなく、今、スタートの段階ですので、他所のあり方も含めながら考えていかないといけない問題だと思います。

(委員長)

全国的にそうなのですが、子どもがどこの中学に入るとか、有名な先生がいるところを目がけて、引っ越しをするとか、もう何十年も前からいろんなことがあります。

今後議論していく必要がありますが、基本的には、学校単位でやっていくということではないということを、共通理解する必要があります。

だから、いつもA地区、B地区、C地区でという枠組みになっていますが、今は何とな

くこの数字を見て、当分は何とか地区ごとでいけそうだが、もう全市で1個のやり方をしたほうがいいのか、できるだけ多様な形を加東市の子供たちに考えると、少なくとも、今の部活種目は対応してあげたらいいと思います。

さらにはここにはない、今、中学生はダンスとか、もっと違うものが出てくるので、そういうものを新たに入れていく場合もあり、そのあたりの議論が今後必要になってくると思います。

(委員)

野球では、社中の一年生はゼロですけど、校外で活動している子が7、8人ぐらいいるので、実際にやっていないわけではありません。

学校自体、スポーツをやっている人口が減っているわけではないと思います。

ただ、やはり学校としては、人数が入ってくれないと試合ができませんし、校外部へ行きたいという子もいるので、そこはもう入ってきた人数でやるしかないというのはあります。やはり、子供がどんどん減ってきているので、学校としては、部活の数をもっと減らしていかないといけないのではないかという話も出たりしますが、いざ減らすとなったときに、いろいろと問題もあります。実際、学校としては、部活動の数の分の先生がいないので、副顧問が二つの部活動を兼部したりしています。

(委員)

同じような意見になりますが、校外部の生徒や無所属の生徒が、これからも増えていくと感じています。部活動に所属はしていても、行けてない生徒もいるはずです。

また、部員数と活動数ですが、生徒としてはいろんな活動があった方が、選択肢が増えますし、部員数が少ない場合、その部活動は合同チームが組めるので、存続します。東播磨の南の方でしたら、ひとつの部活動を3人ぐらいで見ているところもありますが、このあたりだと、顧問の先生の数も1人か2人という現状があると思います。

(委員)

文化系ですと、美術部がない学校ありますが、やはり、美術部に入りたいという生徒もいます。だからといって作るわけにもいけないので、悩んでほかの部活動に入ったりします。部員の取り合い状態になっているところもあるかもしれません。

(委員)

滝野中学校の卓球ですが、女子はあるけど男子はないというのは、かつてあったけれどもなくなったということでしょうか。

(委員)

そうですね。以前はありましたが、部員が少なくなりなくなりました。

(委員長)

まさに学校単位でやる限界ですね。

学校の中で完結させようとする、数を減らさないといけなかったり、取り合いになったり、新設はなかなかできません。

そういう意味では、移動手段とか様々な問題が出てきますが、今度は加東市全体で一つとか、もう今の部活動のイメージをどこか脇に置くことによって、また違う展開が見えてくるかもしれません。

(委員)

合同で部活動をされている場合、毎日の部活はどうされているんですか。ある1ヶ所にみんなが集まるのか、それとも学校単位で練習して、試合のみを合同とするのか。

(委員)

平日は、各学校で練習して、土曜日とか祝日休日になると、一つの会場で練習するよう

な形をとっています。

(委員)

個人種目だといいと思いますが、団体競技になると、連携が難しそうですね。

(委員)

それともう一つ、先日聞いた講演で、中学校の部活に関して、今からは一つの部に属するのではなく、いろんなクラブに籍を置いて、多くの種目に取り組むような形になるのではないかというのを、言われていました。

人員不足で取り合いというような意見がありましたので、そういうのも考えられたらいいのではないかと思います。

(委員)

複数の部活動に所属して、いろんなスポーツを経験するのもいいのではないかという一方で、中体連の大会の参加ルールでは、大会期日が違う場合に、駅伝やスキーは別ですが、例えばサッカー、野球と両方出られるかといったら、それは出られないのです。いざ大会の際には、二重登録制っていうのは、難しいということです。

(委員長)

今の話は、中体連という前提の話であって、例えば競技種目ごとで、あるいは文化活動と運動活動といった登録は問題ありません。

中体連は、中学校の部活動でやっていますので、今後は中体連だけではない大会へと変わっていく可能性もあり、これからの加東市の中学生とか小学生への環境をどうするかというのは非常に重要なご意見だと思います。

続いて資料4等の説明お願いできますか。

(事務局)〔資料4〕の説明。

(委員長)

どこの市町でもそうですが、今までは教育委員会が所掌して最終責任をとり、各学校の校長先生が、全体を見渡しながらという形をとっていますが、今後はこのように、責任の所在とか、団体が運営していく可能性というのが示され、ここには、学校関わった形がありません。

学校の生徒は当然ですけど、校長先生は、相談や活動の場所を考えたりするときは会議に出ますが、基本的には学校の先生も含めて、この図には入っていないので、それぞれの市町で中心的に全体をまわしていく組織が、どの体制がいいか考えてくださいというのが、一番重要な宿題です。

誰が責任を持って指導者を探して、マッチングして、そして問題が起こった時はどうするとかが課題になってきます。もちろん市が委託した場合、当然ですけど、市も少なからず責任を持ちます。ここままで何か質問ございますか。

(委員)

最終的に、任意団体にしても、指導者責任という言葉が出ていました。

過去に、マイクロバスをボランティアで借り、サッカーの試合に行き、子供が非常ドアを開けてしまって、車から落ちて亡くなったという事故が全国でありました。

ボランティアでありながら、我々も同情するような事故だと思うので、関わったところを、精一杯フォローしてもらいたいと思います。

ボランティア＝重責ということになれば、協力していただける人も率先して出てきにくいのではないかと思います。

ただ指導するだけのおっちゃん、おばちゃんではなく、最終的にはその分野でしっかり指導者の勉強してもらった上で携わってもらわないといけないし、資格を取ろうと思え

ば、費用もかかってくるし、これからの問題だと思います。でも、一番は、責任という言葉がずしっときました。

学校教育に、部活動はなくなっていくというような流れも感じ取れます。

先ほど話が出たように、個人競技で、もし子供がやりたいと言って、本当に立ち上げが厳しいかもしれませんが、やはり子供の熱い選択肢の中で、前向きに全体で考えていくべきだと思います。

まずは生徒が真ん中にいるという意識をしっかり持ち、大人の都合で学校や地域で取り合い振り回しはしないほうがいいと思います。

(委員長)

子供たちを中心に据えて、それぞれの市町でベターなところを模索するしかないというのが正直なところですよ。

今までは、中学校になると、完全に部活動で学校の先生だけに世話になっています。

小学校の時は、いろんな公民館事業や文化連盟の事業や、少年団があります。

今後は、学校の先生で希望する人は、「その種目を好きな指導者」として関わる制度を必ず作らないといけないと思います。

アンケートでも、全体で約3分の1の方は、状況によっては自分の好きな種目で関わってもいいと回答しています。

でもそれは、基本的には勤務とは関係ない位置付けになるので、1人の大人として関わります。指導者がいないから、市で唯一の団体に活動するという展開になると、継続性のない形のチームに安易にはお願いできないので、複数体制で指導する必要があります。

そうすると、いろんな考え方が相当出てくると思います。

厳しい言い方ですけど、この議論が進まなくて、地域のみんなで考えて、いい案が出なかったら、大人の市民力がそれぐらいしかないということになります。

今まであまり関わっていなかった人たちにも、少しでも何か貢献して欲しいということ进行宣传していかないといけないと思います。

子供たちも見ていると思いますので、その努力はしないとはいけません。

今回の場合、民間クラブでとか、NPOでとなると、やはりそこに責任もありますので、ちゃんとした団体かということ把握する必要もあります。

(委員)

ただ、クラブ活動の本来の目的というのが、要は生徒がプロを目指して頑張るところまで持っていくのか、それとも、このチームメイト、クラスメイト、学校の中の友達関係を充実させるところなのかということ、そのどっちを取るのかということが疑問です。

(委員)

部活動の意義というのは、基本的に後者であると私は思います。

極端に言えば、プロ野球選手を育てると言われて、育てられる方は多分いらっしやらないと思いますし、それを期待して入られても、その期待にこたえられないというのが現実です。活動を通して、何を学ぶかというところを指導していくものだと思います。

(委員)

今見ると、何か勝たないといけないというような傾向にあると思います。

そうではなく、中学校のレベルでは、一生懸命みんな頑張っていて、勝とうが負けようが、意識を高めればいいのかと思います。

(委員)

ただ、特に運動部の場合は、競技であるという性質がありますから、やはり生徒たちの目標として、勝利とか自分の技量を上げたりとかという目標を持たせて活動するのが大

事だと思えます。だから、そのために練習試合だとか大会だとかいうのがあると思えます。一方で、部活動を通じた人間としての成長が目的だと思えます。

(委員)

目的よりも、その目標を重視してると感じる場合があります。

(委員長)

部活動の悩ましいところを言っています。

これまでは、大会やコンクールがどんどん出てきたら、目的と目標がすり変わってしまったこともあります。

それも含めて、どんな子供たちの姿を描くのかということ、やはりもう1度再確認する必要があります。

大きい市では、例えばサッカーでしたらレベル別や目的別に活動するという展開があるかもしれません。

でも、加東市のようなところではできないとしたら、部活動を地域に動かすのではなくて、この機会に、加東市として、小学校・中学校の子供たちの文化スポーツ活動の姿、1つの種目をずっと続ける姿があってもいいし、多種目で、平日は何をして、土日はどうするかとか、そんな絵を描きながら、我々大人がどうしてやれるかということを考えていく必要があると思えます。

全国的には、完全に数年後には、平日も含めて、部活動なしですと宣言しているところもあります。

地域のお世話になれるクラブを、公認クラブとして認定している例もあります。

個人が勝手にやっているところではなくて、規則、スタッフ、規約、最近のガバナンスとかコンプライアンスとかがしっかりしているところで、それを認定しています。

ですから、やはり取り消しもあります。

ちょっと様子見で、準加盟ぐらいの形を考えていく必要があるかもしれません。

その他、先生方で好きな人たちが、新たに一つのクラブ組織を作って動かれているところもあります。

ゴールを定めて、何をしたいかねばならないかが大切です。

(委員)

今の小学校4年生の子が中学1年生の時から実施されますか。

(事務局)

5年生ですね。

(委員)

5年生ということはもうすぐですよ。

僕はやはり、競技によっても分けていって、実践しないと駄目だと思えます。

それこそ、学校の枠組みを外すというすばらしい案に賛成します。毎年同じぐらいの人数で推移するとしたら、目的に応じて三部、二部、一部でやるディビジョン制というのもいいと思えます。

(委員長)

次に資料9の説明をいただき、議論したいと思います。

(事務局) [資料9] の説明。

(委員長)

このスケジュールについて、確定でも何でもないので、いろんな疑問を出していただけますか。

(委員)

最終到達点としては、地域移行をまず絶対するののかというところと、地域に移行するのは最終何年後かというところ、この中の誰かが囑託みたいな感じで指導するという方法もあるのではないかと思います。

(事務局)

指導員の数を増やしていき、その指導員の方が、引き続き団体の指導をすると行ってくださるパターンもあるかもしれません。

(委員長)

最終到達点というのは、私なりの解釈ですが、場所は学校でやったとしても基本的には学校はもうノータッチというのが基本であると思ったほうがいいと思います。

働き方の上限があるので、残業代が出せないというだけではなく、もうこれ以上働いては駄目ということです。

学校の先生はいるけど、休日はもちろん平日も、地域の人が地域のクラブ活動として指導している光景はあります。

(委員)

学校の中に指導員を入れて、その人たちがクラブを見るというパターンは、ありますか。要は囑託みたいな感じで人を雇って、その人が野球を見るとか、別の人がバレーを見るという感じで、雇い入れるという形はないですか。

生徒がそこに行くかもしれないし、誰か別の人が来て、学校とは関係ない活動をしますというパターンです。

(事務局)

外からの指導者が来られるというのはあり得ると思います。

(委員長)

例えば、体育大学生が入って指導している事例があります。

でもそれは、外部指導員、部活動指導員として、学校教育の中の部活動としてやっています。

ですから、最終到達の状況を覚悟して、それをどんな姿で、何年ぐらいにはというのを、加東市の資源を見ながら考えていかざるを得ないし、種目によっては、もう先にスタートしたほうがいい場合もあります。

一方では、なかなか先の見通しが難しく、あと数年かかるというところもあったりして、種目によって、この移行期は差が出てくる場合も現実出てきます。

種目とか、人数とか、具体的に見直すためには、向こう5年10年のスパンで見ながら、どういうふうなことを考えたらいいか、ゴールが必要です。

そういう意味では、保護者への説明が大切だと思います。いきなり1年後に、部分的に始めますというところだけ出てきたら、大混乱すると思います。

今、こうやって検討委員会として、こんな議論をしていますとか、どんな材料で保護者に説明するののかというところが必要です。

今回、アンケートの検討もありますが、保護者も混乱すると思います。一応情報は書いてあるけど、加東市としてどんな方向にしたいのかとか、何の目的で、どこに向かって動こうとしているかというところが分かりにくい様式です。

(委員)

例えば、先ほど言われた加東市の考え方やこの委員会での協議内容、それに則ってこういうアンケートですというのが欲しいですね。それが、保護者への理解促進につながると思います。

怠けているのではなく、先生の負担は軽減するべきだと思うし、方向性として間違っ

いないと思います。

その辺は考えて、アンケートをしたほうがいいと思います。

(委員)

先生方の負担もあると思うので、わかりやすく保護者に伝えたほうがいいと思います。

(委員)

5年生と話しをすると、中学校1年生の部活動を決めるにあたって、まず中学校に部活動がどんな種類があるのかということが全然わかりません。それは保護者の方も同じだと思います。

子供たちは部活動がどんなものなのかわからない状態でアンケートを取るの、こんなものだというを事前に設定ができればいいと思います。

(委員)

どこの親も、部活動にしても何でも子供に対して熱い思いを持っています。

自分は、そのままこのアンケートに書いていただいて、具体的にいろんな意見が蓄積されたらいいのではないかと思います。

部活動だけではなく、もっと先生方が胸を張って、子供の目をキラキラさせるぐらい、授業により一層熱い思いで携わっていただいたらいいんじゃないかと思います。

(委員)

問1が「している」「していない」の二つしかありません。所属したいができないとか、そんなのもあると思います。

学校によっては、部がないから活動できないという面もあるだろうし、二つだけ押さえてしまうのはどうかと思います。

(委員長)

そういう意味では、地域移行に関するアンケートと書いてありますが、ほとんどが今の部活動の現状を把握しようとするアンケートです。10年ぐらい前にやるならこのアンケートでもいいですが、地域展開という動きを考えると、一考要すると思うので、進め方を再考されたらと思います。

(事務局)

委員の皆様、忌憚のないご意見いただきましてありがとうございます。アンケートにつきましては、再考します。

閉会にあたりまして副委員長からご挨拶いただきます。

(副委員長)〔閉会挨拶〕

(事務局)

では、以上をもちまして第2回加東市部活動あり方検討委員会を閉会とさせていただきます。本日はお忙しい中、長時間にわたりありがとうございます。

令和5年12月14日